

2024年3月29日

2023年度 休眠預金事業 通常枠
「居場所のインパクト可視化を通じた地域活性化事業-居場所と地域のエコシステムの同時強化-」

採択結果について

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

【審査過程】

2023年11月1日	公募要項公開(むすびえホームページ) ※オンラインによる説明会・個別相談会を複数回実施
12月15日	公募締切
12月26日	一次審査(事務局書類審査) 二次審査(オンラインプレゼン審査) 三次審査(審査会議) ※第三者の外部専門家等から構成される審査会議において審査を実施

【採択団体】※五十音順

団体名	一般社団法人愛知子ども応援プロジェクト
事業名	ウェルビーイングを高める取組みの融合による地域コミュニティ全体の活性化事業 ～子ども食堂・学習支援・居場所支援の総合的アプローチから～
事業概要	<p>2015年に愛知県初の子ども食堂が誕生してから8年、現在は400か所を超える子ども食堂が立ち上がっている。立ち上げの動機は様々だが、多くの子ども食堂が「全ての人が心休まる地域の居場所づくり」「困窮家庭への支援」を2つの大きな柱としている。当法人は中間支援団体として「子ども食堂等の居場所が安定的に継続出来ること」を目標とし、地域の子どもや子育て世帯と「顔の見える関係性」「SOSをいつでも出せる関係性」の構築を通じた地域コミュニティの再生と身近な地域におけるソーシャルキャピタルの醸成のための後方支援活動に注力している。それぞれ居場所として素晴らしい地域活動を行ってはいるが、「必要な人へのアプローチ」が常に課題として挙げられる。そこで、子ども食堂などの持つ居場所の役割・重要性を地域に浸透させ、孤立・孤独に陥る人を作らないための居場所と地域活性化のエコシステムを強化するため、以下の事業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none">①多世代交流型子ども食堂を中心に、学習支援、子育てサロン等の居場所の活動状況及び財政状況の把握、強みの共有及び課題の抽出②子どもが主体の居場所が地域コミュニティに与える影響を可視化し、居場所の持つ意義や重要性の普及啓発③居場所の機能強化のため「ケアの多様性・重要性・専門性」を伝える各種専門家による勉強会の開催④子ども食堂及びその他の居場所づくり実践者との連携による、居場所の持つ相談・発見の入り口としての機能強化⑤市区町村単位のネットワーク団体の活動をサポートすることで、多様な主体が居場所づくりに参画できる取り組みを推進する⑥ロータリークラブなど地域の奉仕団体への働きかけを行い、地元企業との連携スキームの構築⑦企業連携のスキームを活用し、各地域で子ども食堂等の居場所を支える仕組みの構築⑧居場所の運営に必要な資金を集める基金を設立し、公平性・透明性・明確性をもって分配する

選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のネットワークとして県域のこども食堂支援に取り組まれていること。 ・関連団体、大学教員等と協働して事業に取り組まれることが期待できるため。
助成額	総額: 58,173,960 円 内訳: 事業費 55,485,000 円 / 評価関連費 2,688,960 円

※事業概要等は、実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき記載しております。

団体名	公益財団法人 長野県みらい基金
事業名	信州子どもカフェ＝居場所が創る地域の未来 ～地域が育て支える居場所づくり～
事業概要	<p>1.アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県内のこども食堂の基礎的財政需要調査、分析 子ども食堂＝信州子どもカフェや地域にある居場所の調査を県内の子ども支援ネットワーク、県・市町村社協等と連携して行う。むすびえ全国調査、県子育て家庭の実態調査とを照らし合わせながら調査を分析する。 ・長野県内のこども食堂が、参加者および地域にもたらすインパクトを評価する 経済効果の定量的インパクト指標と、定性的な対象者の変化、対象地域の変化、主体側の変化など、定量、定性を組み合わせ立体的な社会的インパクト評価＝見える化としていく <p>2.基金等の組成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の居場所が、地域の未来に対する価値であることを広報するツールを作成 インパクト調査の評価を核にした広報ツール作成。多様な居場所の紹介、居場所で生まれるインパクトや現状の紹介 居場所に必要な資金や資源の現状と理想。全国の状況と長野県の状況など比較し課題を整理していく。 ・寄付の受け皿となる基金等を組成する 10地域の子ども応援プラットフォーム、子ども食堂NW、フードバンク、労福協、県/市町村社協、NPO等＋行政などのステークホルダーと連携し、調査の報告会とワークショップを開催、基金づくりのプロセスを広報し、基金の設立準備を行う <p>3.エコシステムの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金創設 基金として企業営業や市民債の創設。多様な寄付メニューを作り実際の資金作りを開始。 財政的資金のインパクトの見える化を活用し、資金作りを行う ・地域の居場所の基礎的財政需要の20%の可視化と目標達成 個々の居場所の自己収入増＋基金収入に加え、県の補助金や多様な民間資金の取り込みを達成していく <p>4.調査、WS開催、基金設立過程、基金運営で生まれた居場所を囲むエコシステムが、地域コミュニティの重要な交流、連携を生み出す地域のエコシステムであることを地域が認識していくプロセスを形成していく</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・基金造成の幅広い実績を有していること。 ・県全体の視点から必要な資金の調査、理解促進、広げる機会づくりなど、本事業の必要事項に総合的に取り組まれることが期待できるため。
助成額	総額: 62,190,003 円 内訳: 事業費 59,289,003 円 / 評価関連費 2,901,000 円

※事業概要等は、実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき記載しております。

団体名	認定NPO法人山口せわやきネットワーク
-----	---------------------

事業名	心豊かな生活を支える「居場所」の理解促進・基盤づくり・エコシステム形成 ～地域の「居場所」の存在と機能の周知を図り、より多くの利用と参加により、生きがいと幸せを実感する地域づくりを行う～
事業概要	<p>こども食堂や子どもの居場所に限らず、高齢者まで含めた多世代にとっての、地域の「居場所」は、利用する側(サービスや支援を受け、助かる)だけでなく、ボランティア等として参加する側にも、自分の経験を活かしたり、新しい仲間づくりができるなど、人と人との繋がりにより、生きがいを持ったり、地域の住みやすさを感じさせる場になる。さらに、そうした「居場所」が増え、利用も増えることで、行政の手が届かない部分でも支えられたり、地域福祉の向上につながるなど、様々な機能を発揮するとともに、ボランティアの受入に留まらず、賛同する企業等が資金や物資等の提供することで、社会貢献につながり、こども食堂等の運営を支えることになる。しかし、こうした地域の「居場所」の活動の実態や機能、財政基盤などは一般的にはあまり知られていないため、機能やコストなどに関する調査結果から「居場所」が持続可能であるために必要なものを地域資源を調達・循環させるシステムづくりを行う。</p> <p>(1)居場所のインパクトの可視化(調査研究):県内の「居場所」の実態(目的、種類、対象者、市町別所数)と、実際の居場所の効果(福祉的、経済的など)について調査するため、シンクタンク(例:持続可能な地域社会総合研究所)や大学、山口県社協(市町社協含む)、経済研究所などに委託を行い、箇所数や機能など実態とインパクト(効果)を調査する。</p> <p>(2)財政的需要等に関する調査:「居場所」の活動における、実際の人員(スタッフや利用者など)、支出と財源、ボランティアアンケートなど、実態を把握するため、協力してくれる「居場所」20～30カ所に月次報告を依頼し、データを収集、必要人員や、特に基礎的財務需要と調達方法を調査・分析する。</p> <p>(3)広報・周知:居場所のインパクトとその運営に必要とする資金等について情報発信を行い、行政や社協等関係団体、企業、生産者団体や個人などの理解促進と普及啓発を図り、連携と支援の体制整備を働きかける</p> <p>(4)地域資源をつなぐエコシステムづくり:地域の「居場所」を支える地域資源＝地域関係者をつなげ、特に必要資金を調達する基金を造成し、活動を支える。</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・全県的にこども食堂を増やす取り組みをされた実績がある。 ・ネットワークや経験が豊富で現状分析や支援策を企画・実施しつつ、外部機関と連携して取り組まれることが期待できるため。
助成額	<p>総額:62,850,000 円 内訳:事業費 60,000,000 円 / 評価関連費 2,850,000 円</p>

※事業概要等は、実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき記載しております。